

カリキュラム

基本的な人間理解に始まり、看護学の基礎的知見から応用的・実践的知見、さらには具体的なスキルに至るまでを段階的に学ぶことができるよう、体系的なカリキュラムを編成。同時に、1年次の語学を含む導入教育から、3・4年次の国際看護学に関する科目群に至るまで、グローバル化した社会に対応した実践力が身につくよう学生一人ひとりに寄り添いながらバックアップします。

専門教育科目

●：必須科目 ○：選択科目 赤字：実習科目

| 1年次 | 2年次 | 3年次 | 4年次 |
|--|--|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ ● 疾病と治療Ⅰ ● 医療統計学演習 ● 地域における健康増進 ● ところとからだの探求 | <ul style="list-style-type: none"> ● 薬物と薬物療法 ● 疾病と治療Ⅱ ● 公衆衛生学 ● 疾病と治療Ⅲ ● 健康福祉社会とグローバル化 | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 看護学原論 ● 看護の基礎技術 ● 健康教育と看護倫理 ● 基礎看護技術Ⅰ ● 基礎看護学実習Ⅰ | <ul style="list-style-type: none"> ● 看護と人間関係 ● 基礎看護技術Ⅱ ● フィジカルアセスメント ● 基礎看護学実習Ⅱ | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 地域を学ぶ | <ul style="list-style-type: none"> ● 成人看護学概論Ⅰ(急性期) ● 成人看護学概論Ⅱ(慢性期) ● 老年看護学概論 ● 老年看護活動／援助論 ● 小児看護学概論 ● 小児看護活動／援助論 ● 母性看護学概論 ● 母性看護活動／援助論 ● 精神看護学概論 ● 精神看護活動／援助論 | <ul style="list-style-type: none"> ● 成人急性期の看護方法 ● 成人慢性期の看護方法 ● 成人看護学実習Ⅰ・Ⅱ ● 外来看護学と地域・多職種連携実習 ● 老年看護学演習 ● 老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ ● 小児看護学演習 ● 小児看護学実習 ● 母性看護学演習 ● 母性看護学実習 ● 精神看護学演習 ● 精神看護学実習 | |
| | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域・在宅看護学概論 ● 地域看護と地域包括ケアシステム ● 地域・在宅看護活動／援助論 | <ul style="list-style-type: none"> ● 地域・在宅看護学演習 ● 地域・在宅看護学実習 ● 医療英語 ● 国際看護学 ● 英語診療演習 ● 国際看護学実習Ⅰ | <ul style="list-style-type: none"> ○ 国際看護学実習Ⅱ ● 看護の統合と実践 ● 看護研究の基礎 ● チーム医療と医療安全 ● 看護マネジメント ● 遠隔看護と看護情報 ● 看護とリハビリテーション ● 看護学総合講義 ● 応用看護演習 OSCE/IBT ● 看護学統合実習 |

全学共通教育科目

| | | | | | | | |
|--------|----------------|------------|-----------|------------|----------|--------|-----------|
| 1年次で履修 | ● フレッシュワーズセミナー | ○ 哲学の世界 | ● 英語A1、A2 | ○ 倫理学の世界 | ○ 統計の仕組み | 2年次で履修 | ● 英語C1、C2 |
| | ● 日本語リテラシー | ○ 心理学概論 | ● 英語B1、B2 | ○ 法学入門 | ○ 生命の科学 | | ○ 中国語1、2 |
| | ● コンピュータリテラシー | ○ 世界の歴史と文化 | ● 健康の科学 | ○ 社会学入門 | | | ○ 韓国語1、2 |
| | ● 健康・スポーツ1、2 | | ● 情報演習 | ○ 自然科学のあゆみ | | | |

学外実習スケジュールイメージ

| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 |
|-----|----|----|------|----|----|------------------------------|-----|-----|-----|----|-------------------|----|
| 1年次 | | | | | | | | | | | 基礎看護学実習Ⅰ 地域を学ぶ | |
| 2年次 | | | | | | 基礎看護学実習Ⅱ | | | | | | |
| 3年次 | | | | | | 各看護学実習（成人・小児・国際・老年・母性・精神・在宅） | | | | | | |
| 4年次 | | | 統合実習 | | | 国際看護学実習Ⅱ（選択） | | | | | | |

健康上の課題を有する対象者とのかわりを通して、基本的な援助技術を実践し、看護学を学ぶ者としての自覚と基礎的能力を学修します。

1～3年次の各領域の実習で学んだ知識・技能・態度を統合する、より臨床実践に近い形で学修します。

海外の提携病院で国際看護を学修します。

1～2年次に修得した知識や技術をもとに、各専門領域(成人・老年・精神・小児・母性・在宅・国際)で実習を行い、対象者の特徴や場面に応じた看護実践を学修します。

体系的なカリキュラムに基づくグローバル化した 社会に対応できる実践力を身につける

最先端の看護学を中心に、人間科学を網羅した幅広い科目群で編成され、相手を理解し共感し合える人間力、医療現場で最先端の看護を展開できる情報処理・問題解決能力と技術力、そして科学的に考え常に斬新なアイデアを創生できる研究力を身につけます。

4年間の学びのポイント

1年次 大学での 専門教育に向けた導入

「フレッシュャーズセミナー」を通して、「大学で何をいかに学ぶか」を学修します。同時に、外国語教育科目や「健康の科学」「世界の歴史と文化」「情報演習」などで専門教育への導入を図り、「人体の構造と機能Ⅰ～Ⅳ」や「看護学原論」などの基礎看護学科目群により本格的な専門教育を開始します。

2年次 専門的な看護理論と 科学的な看護方法を学ぶ

専門基礎分野の充実を図りながら、「基礎看護技術Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅱ」などにより看護の基本を学びます。さらに、成人看護学をはじめとする各領域の看護学における講義と演習を通して、人間のライフサイクルに合わせた専門的な看護理論と科学的な看護方法を学びます。

3年次 グローバルな 看護実践能力を身につける

専門の各領域における演習・臨地実習を通して、看護専門家としての実践力を磨きます。さらに、国際看護学における「医療英語」「国際看護学」「英語診療演習」「国際看護実習Ⅰ」などの科目を通して、国際社会にも対応できるグローバルな看護実践能力を集中的に学びます。

4年次 看護実践の応用・ 情報処理能力を身につける

「看護の統合と実践」「応用看護演習 OSCE/IBT」「看護学統合実習」などにより、看護実践の応用力と高度な実践力を身につけます。同時に、「遠隔看護と看護情報」や「看護研究の基礎」などにより、看護実践に役立つ情報処理能力や斬新なアイデアを創生できる思考力・研究力を身につけます。さらに、「看護学総合講義」を通して知識の総まとめを行い、資格取得に向けての具体的な準備ができるようにします。

国際看護学科 8つの領域

| | |
|-------------------|--|
| 基礎看護学領域 | 看護学の基盤となる看護理論や基礎的な看護実践能力を養うことを目的とした専門領域です。 |
| 地域・在宅看護学領域 | 地域で生活する人々と家族を理解し「生活の場(地域・在宅・産業・学校)」など様々な場での暮らしを支える看護を学びます。 |
| 成人看護学領域 | 急性期から慢性期に至るまで、成人期にある幅広い年齢層の方やその家族に対するケアなど幅広い領域を網羅しています。 |
| 老年看護学領域 | 高齢者の尊厳を大切にしながら生活機能を維持し、その人らしい生活を支援していく看護について学びます。 |
| 小児看護学領域 | 小児看護に関する理論や、子どもと家族の健康の維持増進および小児医療・看護の課題についてさまざまな視点から学びます。 |
| 母性看護学領域 | 女性の一生を通じた健康生活への支援を学び、母子とその家族の健全育成を支援する看護を学びます。 |
| 精神看護学領域 | 人のかかえる「生きにくさ」や精神看護上の課題について理解を深め、心に病を持つ人たちの生活を支える看護を学びます。 |
| 国際看護学領域 | 世界の人々のより良い健康維持・改善、国・文化・宗教・言語などを考慮した看護など、国際保健における看護の役割と実際を学びます。 |

基礎看護学実習Ⅰ

客観的に指導ができるよう最新の設備で学生に分かりやすく解説。学生一人ひとりにきめ細やかな指導を行います。



国際看護学

カリキュラムの特長として「国際看護学」の科目区分を設けています。主として日本に滞在している外国人の診療補助や看護ケアなど、グローバル化した社会に対応できる力を養います。



高度情報社会のなかで グローバルな視点でローカルに活躍できる 看護師を育成!

教授/国際看護学部長 川口 孝泰

インターネットやパソコンなどの情報通信技術の急速な進化に伴って、社会における看護の役割は大きく変貌しようとしています。とくに看護の主な活躍の場が病院から地域・在宅へと広がり、看護の専門性の拡大と、自立した専門職業人としての資質が大きく問われています。このような中で、日本での看護教育の大学化は急速に進み、看護系大学教育機関は300校に迫る状況です。

医療創生大学は、全学の理念として、「科学的根拠(Science)に基づいた術(Art)を備えた慈愛のある医療人の創生」を掲げています。この理念は、看護学の学問の独自性として国際的にも唱えられているNursing: Art and Scienceとも合致し、国際看護学部が目指しているグローバルな看護人材の育成をより強固なものとしています。

柏キャンパスの教職員と共に、次代の健康社会を担う看護専門職の育成に向けた学び舎を築いてみませんか。